

## あらためて喜怒哀楽を感じさせられたこの1年

2008年もいろいろな人に出会い、いろいろなことを学び、農業の厳しさも再体験させられた。北海道の7月の気候は異常であった。普通の年であれば晴天が続く季節に、よく本州で聞く、毎日毎日、雨また雨であった。私はまあまあだったが、空知の麦はほぼ全滅、大豆も半作程度であっても、このような気象条件で平年作を取っている生産者がいて、彼らからの改善策を学んだことは将来への唯一の救いであった。

最初からアクセルフルスロットルでいきたい。この業界には**変な輩**が多すぎる。周辺産業と言えども聞かぬが良いが、なぜ農業に直接関与しない人たちが組織がこれほど多く存在するのだろうか。野球だったら外野席はわずかしかお金を出さない、だからホームランが来たときだけそれなりに振る舞えるだけの、チケットを買わずにタダ券で見ているような輩が、農業を物知り顔で語っている。それだけでなく、それを生活の糧にしようなんて不届き者が多すぎる。特に○○先生、●●教授なんて言う肩書を持つ人物が一番危ない。マトモに現状と将来のあり方を語れる先生はほんのわずか。投資もせず、地

産地消、有機栽培、安全・安心なんて言葉を使うマルクス・レーニン主義を前面に出す大先生は実におめでたい存在だ。ある教授が「農学部は農業をするための学部ではない。農業は儲からないのが分かっているから、微生物、育種、環境など広い範囲の農学を教えているのだ」と話されたそうだが、正直なものだ。

こんなことは、ちょっと考えただけで理解できる話である。20兆円を超える売上があるトヨタのネタを評論して、この世の中何人が飯を食えます？ 現実には車で年間数千人の方が亡くなっているながらTVでは安全・安心の社会を目指しますだって？ それにラウンドアップよりも急性毒性が高い酒を飲んで肝硬変になり、亡くなった家族のことを嘆かず、息子が農家を後継ぐよりもサ●リーやア●●ビールに入社させることを望むバカ親は何を考えているんだ？

我々生産者が作った農産物で**健康被害**が出たことがあるか？ その様

## Vol.22 1年を振り返りつつも前進あるのみ



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンドイヤ代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

な会社や社会をゆすって金を巻き上げることはできて、良い死に方はできないだろう。生産者の怒りはこのような無秩序で無能、単なる金くい虫連中を淘汰させることでもある。

3月には本誌の読者の会が3日間にわたり開催された。世間に隠れた変人・奇人がいる日本の懐の厚さを学ぶことができたが、参加者には聞いて

# オレにも 言わせる! 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

みたかった。「みなさん国籍はどこで、どこでその様な教育を受けたのですか?」って。

真面目な青年にもお会いした。打ち上げで私に話しかけて来た、山形で将来サクランボとスイカをやりたいと言う伊藤さんは真面目そうだが、純朴すぎて農業のいやらしさをこれからも学んでいくだろう。彼には農業に必要なものは農政、お金、やる気、一番大切なのは「愛」だと伝えておいた。

会場で編集長から北海道・農政部・N元農政部長を紹介していた。会った瞬間には「敵意」を覚えただ。本当はもつとドギツイ表現を考えたが、品のある本誌には適切ではないと思うくらいの方である。彼は北海道の懲役・罰金刑がある遺伝子組換え条例作成に関与し、その後施行させた張本人である。なぜそれほど頭に来ているかって? 実はこの遺伝子組換え条例作成に当たり、農水とひと悶着あった。当時の農水の担当者から聞いた話では、組換えを進める農水のS氏は、元部長に「この条例を作れば、北海道への農水の予算に影響が出ますよ」と脅しをかけたが、N元農政部長様は「構いません」と返事したそうだ。その事実関係をご本人に確認したところ、いけしゃあしゃあと「その通りですよ」

と答えた。「カチーローン」と来た。聴覚神経から理性をコントロールする大脳を飛び越し、本能を司る小脳が働き伝道物質が脊髄を通り、足まで伝わり180度回転して握力70kgの左握り拳を握力65kgの右手が抑えるのに必死だった。早い話、編集長はどの様な結果になるか分かっていながら私たちを会わせただろう。

しかしすごい話だ。すべて事実だが、農水と各都道府県の力関係や最近北海道の農業予算の削減が著しい原因は左翼思想の地方公務員に責任がある。お望み通りに予算が減らされ、イエス・クリーン、地産地消、特に有機栽培が盛んになったか? そんな数字の裏づけは存在しない。

こんなこともあった。当日会場で私が着ていたヒール宮井のTシャツを読者プレゼントすることになり、私のコラム担当者のKさんが「女性限定にしましょう」と提案した。そんな話も忘れた頃に「いましたよ」。そう、私にも女性ファンが登場したのです。来年からは独身女性限定で**華真臈**漂うシャツを10枚程度に増やし、ファンの集いでも開催しようかとニタニタしながら考えている。農作業ではロープを用いる。作業現場で物を縛り、固定するのに便利である。ほかにこんな風を使うこともあるんですよ、ある元業界創業者に話をした。彼は「ほう、同じ太さですね」と反応した。そのロープの太さは8mmであった。彼によるとSM撮影の場合、10mmでは大きすぎて臨場感が出ない、6mmでは女優や男優が身体に食い込んで痛がる、そこでこの8mmの太さであれば、見る側も演技する方も納得できるらしい。快楽のマジック・ナンバーだ。

**歴史を紐解き、自分たちの立ち位置を把握する**

正月には神社に行く多くの仏教徒がお祝いするクリスマスがやってくる。そのイブ・イブ、12月23日は天皇誕生日である。金髪・ブルーアイ好きの右翼と思われる私が「天皇陛下バンザイ」ってやると思いますか? 近代年表を調べていた。大東亜戦争があり、日本が負け、戦後の東京裁判で死刑が決定し、昭和23年12月23日、GHQによって東京・巣鴨プリズンで7名が絞首刑になった。意味深い出来事だ。彼らは本当に悪党だったのだろうか? なぜその日に死刑が行われなければならないのか。GHQはこう考えたかもしれない。

「天皇、お前の命は助けてやる、戦後も日本をまとめるために利用できなくなるから、極東アジアの島国の批判をこれ以上増幅させないために昭和

天皇の誕生日4月29日の死刑執行はとりあえず避けてやる。しかし忘れなよ、お前の息子が将来、天皇になるのを認めてやるが、その日に何が行われ、将来の息子が死ぬまで実質、誰がこの国を統治するのか、よく覚えておけ」

私は天皇制を問う立場にはないが、世の中、誰を中心に回っているのかは簡単に理解できそう。自分の子供たちが「米国は原爆を落としたり、とんでもない国だ!」と言えるのと同時に「米国と戦争することは正しいことではない」とも口にできる教育は必要だ。

北海道で販売されていない産経新聞くらいは事実を報道するかもしれないが、メディアがこの日に7名の戦犯と呼ばれる人たちが絞首刑になったことを伝えるのを見たことがない。読者のみなさん、母国・日本を愛するのは当たり前であるが、現実はまだ占領下である**事実認識**を持つべきである。そして社会の仕組みの中で農業の生産者ほどの様に生きていくかを問われるかもしれない。ちなみにこの絞首刑で用いられたロープはAV業界と生産者が大好きな8mmだったか確認はとれていない。では7名の戦犯と呼ばれた人たちに合掌。そして恋人たちにメリー・クリスマス。